

【所属名：環境生活課】

【会議名：第1回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 令和4年2月16日

日	令和4年2月7日	時間	10:00~11:50	場所	市役所 203・204 会議室
件名	議題 第2次糸魚川市環境基本計画 令和3年度進捗状況報告について（公開）				
出席者	【出席者】 10人 池亀 正文、石川 正吾、齋藤 伸一、杉本 日出晴、野澤 和己、南 直樹、 安田 初恵、山縣 耕太郎、横田 清士、吉田 惣栄				
	【欠席者】 3人 菅原 賢明、杉野 朝子、磯貝 誠				
	【事務局】 3人 環境生活課：猪又課長、小竹係長、渡辺主査				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会・あいさつ 進行：小竹係長 挨拶：猪又課長

開会宣言

2 議 事 進行：山縣会長

(1)第2次糸魚川市環境基本計画 令和3年度進捗状況報告 について

《主な質疑・意見》

【委員】 昨年、田海ヶ池の掃除の様子がテレビで放送されましたが、何か効果があったのでしょうか。また、自然を守り継続するには、市だけじゃなく、地域の方や理科センターの方、興味のある子供たちを上手に取り込まないと難しい時代になってきたと感じます。市はどのように考えていますか。

【事務局】 田海ヶ池は多くの種類のトンボが生息する場所で、今回の放送で幅広い方に知っていただく良い機会になったと感じています。

事業内容としては、地引網で外来生物を駆除する予定でありましたが、うまくいかず苦戦しました。成果としては、外来生物428匹を駆除しました。その後、学校に出向き、生息生物や駆除方法、成果をお話し、児童に興味を持ってもらい、地元の池を守っていかねばと感じてもらえたと思います。

今年度は、釣り大会等を通じて駆除活動をしております。何もしないと増え続けるので、意識付けや自然を守るといった周知が大切と考えて

います。

【委員】 田海ヶ池の関連で、先日、地元と市と池の水を抜いた会社と懇談会があり、その中で、トンボの生息数が減る前は、池の水位が今の半分位になるよう水を排出していたとの意見があり、この雪解けから少し排出を増やして水位を下げる試みがされます。

あと、池の周辺の整備も地元から要望が出たので、今年度から多少変わってくると考えています。

【事務局】 来年度は駆除の事業を進めると同時に、どうしたら田海ヶ池がよくなっていくのか、整備みたいなことも含めて地元の方といろいろ話し合う事業も計画しています。

【委員】 CO₂の排出量の数値が減った内容を教えていただきたい。

【事務局】 全国的にみても全体的に下がっているが、コロナ禍ということもあり、主に産業部門かと思えます。糸魚川市だけで捉えますと、人口減が排出量の減少に大きく関与していると思えます。

【委員】 この目標値は、国の基準値が変わる前の数値だと思えますが、今後、この期間内でも見直しを行う予定で、それを検討されているということでしょうか。

【事務局】 市も国の基準に合わせた目標設定が必要と考えています。来年度以降見直していきたいと考えています。

【委員】 国の棚田地域振興法についての取組みについて、市はどのようにされているのか。棚田や里山は特にいろいろな面で大事で、糸魚川全体が殆ど里山、棚田地域という環境で、どのような取組みがされているのか教えていただきたい。

【事務局】 農業分野では、直払いや環境保全ということで、農業者の方々から取り組んでいただいています。地域としてその分野で棚田をどうするかというところは、具体的な動きはないと認識しています。今後の課題かと思っています。

【委員】 確かに農業者だけの問題ではなく、その地域の防災関係とか教育の場での活用とか、いろんな面で自然の状態がいかに継続されるか大事と思うので、行政の方でリーダーシップをとってほしい。

【委員】 昨年、新潟県は希少野生動植物保護条例を策定して、15種の動植物を指定し、最大で罰金50万円という罰則を設けて保護しているが、その約半数は糸魚川市にいる、あるいはいたという記録がある。市でも保護条例を作って市民に周知してほしい。近隣市ではすでに条例があるので、遅れていると思う。

ジオパーク自然資源保全委員会では、市内の貴重な動植物の実態調査を昨年実施していて、その中で特に蝶は県外から愛好家が来て取り放題でとっていく。保全活動をするうえでも検討をお願いしたい。

また、去年はイノシシが頻繁に出没したため、区長へ駆除のお願いを

したが、区長も相談先が分からず、依頼までに苦慮した。相談先については、せめて区長位に周知してほしい。

【事務局】 県で制定した保護条例の中に市も含まれているという位置づけになります。今回、もう一つ上をいって市独自で作っていただきたいという内容ですが、先進の妙高市などを参考に検討していきたいと思います。また、ジオパーク保護推進委員さんと協力しながら、保護していきたいと考えています。

イノシシの駆除の関係については、市に連絡を頂ければ調整することもできますので、そういった周知をしっかりとしていきたいと思います。

【委員】 野生動物の関係で、サルについても相当出回っていて、農作物への被害が出ている。イノシシと違ってサルは保護動物のため駆除することができない。対策として里に下りてこないよう山林の整備が重要となるが、補助金制度の継続と森林事業に興味を持つような方針をお願いしたい。

【事務局】 サルは 駆除対象となっていない動物のため、最近被害が多いと聞いていますし、実態も把握しています。委員のおっしゃるとおり、サルの生息地域と人間の生息地域をしっかりと分けられるような対策が必要と思いますので、継続的な山林の手入れをしていかなければと思います。

【委員】 ごみの排出量については、全国的にみても減らない状況ですが、糸魚川市では減らない要因・原因はどのようなものか、どう捉えられているのか伺いたい。

【事務局】 ごみの排出量については、目標値から大分差がある状況ですが、要因の一つとして水分。二つ目に紙ごみと考えています。ごみを出す前の水切りと包装紙など紙資源となるいわゆる雑紙が燃えるごみにまざっているため、出前講座や広報無線で分別の周知をしているところです。

【委員】 新潟県では、今年度「新潟県食品ロス削減推進協議会」を立ち上げていて、食品ロスが非常に多いと注目されています。ごみの排出量に関しても、その様な視点で取組むと効果があるのではないかと思うので、取り組んでいただければと思います。

【委員】 猟友会の高齢化が進んでいて、いつでも出動できる体制が難しくなってきた中で、市の職員が出られる体制をちゃんと確保してほしい。

【事務局】 捕獲については、今の段階では難しいが、市民の安心安全を守るため、クマやイノシシが出た場合、市の職員も現地へ行って安全確保を取る体制は出来ています。

【委員】 再生可能エネルギー設備の導入状況に関して、ペレットストーブのペレットの需要が計画通り進んでいない現状があり、ペレット製造工場では経営が非常に苦しい状況で、ペレット自体の値上げや、森林組合から仕入れる原木の単価を下げたりしている。今後、永続的に取り組むためにもペレットストーブへの助成等、市からも引き続きご協力をお願いしたい。

【事務局】 ペレットストーブへの助成については、来年度も引き続き対象予定で
います。また、環境に優しいという面をしっかりとPRして、導入促進
を図っていきたいと考えています。

3 報告事項

(1)中小水力発電懇談会について

《主な質疑・意見》

【委員】 水力発電の具体的な進捗についてお聞きしたい。

また、糸魚川のように谷が多い地域には、数多く河川があり、その川の水
で発電した電力を利用することにより、川を守ろう、自然を守ろう、上
流の棚田を守ろうとか、そういったものも含めて、行政の方でリーダー
シップをとってやっていただきたい。

【事務局】 中小水力発電の進捗状況についてですが、現在、能生の柵口地区にあり
ます湯沢川で、民間事業者による水力発電の計画が進んでおり、来年度工
事までできるのではないかとこのところまで進んでいます。

4 その他

(1)意見交換

【池亀委員】

- ・今回要望したものが少しでも市の政策の中に反映していただければと思っている
ので、ぜひお願いしたい。

【石川委員】

- ・自分が関わっている農林振興は、非常に関りが深いと思った。
- ・棚田、林業、サルなど、今後協力をさせていただいて、環境面や農林水産の部分
でも前に進んで行かれるよう頑張っていきたいと思う。

【齋藤委員】

- ・区で実施する清掃活動の中で、犬の糞やたばこのポイ捨てが、まだまだ沢山ある。
- ・市民の意識改革は難しいが、私達も協力するので、一緒になって意識改革に取り
組んでいきたいと思っている。

【杉本委員】

- ・田海ヶ池の環境整備において、デンカさんの保安林があるので、事業者と一体と
なって取り組まないと綺麗になっていかない。市からも協力してもらえよう働
きかけてほしい。

【野澤委員】

- ・環境保安部では、水力発電所等の補強や再生可能エネルギーの拡大、CO₂の排出

の削減や固定化などの検討を進めている。

- ・地域の皆様と共存していけるように努力していく。

【南委員】

- ・環境問題は容易に解決できない問題が多く、その中で脱炭素問題と鳥獣被害対策は、市民や企業と一緒にになって取り組む問題であると思う。

【安田委員】

- ・18：45の広報いといがわの放送内容が「毎回同じようなことを言っている」と言う人がいるが、考えようによっては逆に聞いてくれている証拠でもあるので、内容や放送の仕方を工夫すればもっと耳を傾けてくれるのでは思う。
- ・市民の気持ちを動かすためにはどうしたらよいか、検討いただければありがたい。
- ・ごみの分別は、市民一人ひとりの意識付けができないと、市だけではできない仕事と思っている。心を動かす情報を発信してほしい。

【横田委員】

- ・市とは、ごみの減量化に伴う出前講座や田海ヶ池の環境保全について、一緒に協力させていただいた経緯があり、今回初めて審議会に出席したが、いろんな意見が出て、非常に活発で素晴らしいと感じた

【吉田委員】

- ・行政と我々委員のコミュニケーションが足りていないと感じた。
- ・次の委員選定では、若い人たちの意見を反映させられるような選び方をしてほしい。

【山縣会長】

- ・県外出身の立場としては、糸魚川の自然環境は素晴らしいし、高く評価されるべきものだと思う。
- ・テレビ番組で取り上げられたことから、全国的にみても注目される、高く評価されるような環境に恵まれた地域であると思う。
- ・ジオパークも含め売りにできる、売りにしているところがあるのであれば、基盤となる地域環境も、良い環境を保っていかなければ、本末転倒となってしまう。
- ・より積極的な前向きな取組みを今後もしていただきたい。行政だけでは難しいかと思うので、地域住民にきちんと施策なり、地域の環境についての理解をしていただく必要がある。
- ・環境基本計画はSDGsと結びつけて作成しているので、環境の意義とかも含めて地域の人たちに啓もうし理解をしてほしい。コミュニケーションをとって一緒に環境の持続性を考えていけるような施策をとってほしい。